

# 議員視察で土屋・三島市議

## 報告書写して提出か

### 同行市議「メール送ったと思う」



本紙が入手した土屋利絵市議の報告書と堀江和雄市議の報告書のコピー。写真や文面がほぼ同じだ

視察は土屋市議と堀江市議の二人が参加した。報告書は、総社市の支援事業について紹介する「概要」と、「ひきこもりは怠けではありません」とのメッセージが印象的だったとす「所感」があり、文面と写真が計三ページにわたり、ほぼ同じだった。

堀江市議の報告書には「三島市への課題」というページもあったが、土屋市議の報告書にはなかった。三島市議会には政務活動費の交付に関する条例で、収支報告書に添付する形で視察報告書の提出を義務づけている。総社市の視察は、政務活動費から交通費と日当に当たる旅行雑費として、それぞれ計三万三千八百四十円が支払われた。当時の所属会派は、土屋市議が無党派で、堀江市議が公明だった。

静岡大人文社会科学部の日詰一幸教授(行政学)は「他人の報告書を使うのは望ましくない。公金を使っているのだから、視察結果を三島市にどう還元するかを意識しなければいけない」と指摘した。

三島市の土屋利絵市議(改革みしま)が、二〇一七年十月に岡山県総社市のひきこもりの支援事業を視察後、一緒に視察した市議とほぼ同じ視察報告書を作成し、議長に提出していたことが分かった。同行市議会の鈴木文子議長(公明)などによると、土屋市議は、一緒に視察した堀江和雄市議(同)の報告書の内容を写す形で、自分の報告書として提出していたとみられるという。

(佐久間博康)